

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 地域課題探究型学習推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 教育総務課 教育企画第二係 電話番号：058-272-1111(内8521)

E-mail：c17765@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,480 千円 (前年度予算額：8,480 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,480	4,045	0	0	0	0	0	0	4,435
要求額	8,480	4,045	0	0	0	0	0	0	4,435
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

・小・中・高と切れ目のない「ふるさと教育」を実施するため、高校においては、小・中学校で学んだ知識をベースに、地域の課題解決に向けて動くことが必要である。

・高等学校の新学習指導要領においても、課題解決型学習が求められており、普通科高校のうちいわゆる中堅進学校において令和元年度から本事業を始めた。高等学校における3年間を見据えた「ふるさと教育」を実践するため、本事業を継続する。

(2) 事業内容

・本事業では数年かけて地域と構築してきた関係をさらに生かし、市町村職員・大学研究者・企業経営者等による出前授業やワークショップ等を実施することで、地域課題の提供・把握を行う。また、学校運営協議会での意見を踏まえ更に地域との連携を強め、より深く探究的な活動を行えるように改善していく。

・それを踏まえ、フィールドワークやICTの利活用によるデータの分析、教科横断的な視点による多角的な分析による論点の整理などを通じた実践的かつ探究的な学びを展開。

対象校：13校（羽島北、各務原、各務原西、本巣松陽、羽島、大垣南、大垣西、郡上、武義、加茂、多治見、中津、益田清風）

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	806	指導助言講師謝金、研究会講師謝金
旅費	780	指導助言講師費用弁償、職員旅費
消耗品費	3,042	資料・図書購入費、活動材料費
会議費	39	会議費
印刷製本費	221	製本費
役務費	30	郵便代
保険料	312	バス保険料
委託料	910	講座等委託料
使用料	2,340	バス借り上げ
合計	8,480	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・岐阜県教育大綱（R1～R5）
 - ・ 1. 「清流の国ぎふ」への愛着を持ち、地域を担う人材の育成
 - (1) 各教育段階における「清流の国ぎふ」への誇りと愛着の醸成
- ・ 第3次岐阜県教育ビジョン（R1～R5）
 - ・ 基本方針1 んぎふへの愛着をもち、世界に視野を広げ活躍する人材の育成
 - 目標1 「ふるさと岐阜」を学ぶふるさと教育の充実

(2) 国・他県の状況

・新高等学校学習指導要領（令和4年度から年次進行で実施）においても、課題解決型学習の実施が求められている。

- ・まち・ひと・しごと創生基本方針2018（H30年6月15日閣議決定）

◎地方創生に資する高等学校改革の推進

高等学校が地元市町村・企業等と連携しながら、高校生に地域課題の解決等を通じた探求的な学びを提供するカリキュラムの構築等を行う取組みを推進し、地元根ざした人材の育成を強化

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

高校生が地域における課題を解決する探究型学習により、将来的に地域人材として活躍する意欲を向上させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 実績	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

高校生が将来的に地域人材として活躍するまでには、かなり時間的にかかる上に、地域での活躍の方法には様々な手段もあり、到達度の指標を設定するのは困難である。

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ○協議会の開催（年間2～3回13校全校） ○生徒によるSDGs研修旅行の企画（羽島北） ○市役所各課から地域アドバイザーを招き、生徒とともにグループ協議（各務原） ○地元企業の新商品の開発に参画し企画を提案（羽島） ○生徒自身が設定した課題に基づき実地調査を実施（大垣南） ○思考力・判断力・表現力に関するWeb教材を用い、生徒が主体的に探究する力を育成（武義） ○関係機関と連携し、自然環境について調査・探究し、その成果を地元公民館と連携し、小学生向けのサイエンスショーとして実施（多治見） ※新型コロナ対応により、対面での講演会等の実施は困難であり、多くはオンラインで実施
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ○地元和菓子屋、アクアトトぎふとの三社連携による新商品の開発（羽島） ○『住み続けたいまちづくり』探究（羽島北） ○主体的に生きる生徒をはぐくむシステムの開発について（本巣松陽） ○“SDGs de 地方創成カードゲーム”を使用した仮想の町の成長を目標にした研修実施（郡上） ○美濃市の魅力発信と火災・地震対策についての探究（武義） ○自分の能力・適性を把握し、事故を取り巻く地域社会に関心を持たせる仕掛けづくり（加茂） ○多治見市図書館と連携した図書館利用者数を増やし、来館者が楽しめる企画の実施（多治見） ○地域での共助の仕方と役割についての研究と提案（益田清風）

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	小・中・高と切れ目のない「ふるさと教育」を実施する事業であり、高等学校の新学習指導要領や新しい大学入試制度においても、課題解決型学習が求められており、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 3	学校の実情にともなった実施計画と地域との協働により、教員や生徒が刺激になり、新しい学力観の育成に寄与している。
・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	実施計画に基づき、計画的、効率的に事業を進めている。また、過去の実績、積み重ね等を活用し、さらに効率化が図られている。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 学校ごとの実情に合わせて、地域課題を見極め、適切な指導・助言を行い、翌年度以降に順次改善していく必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 各学校における探究型学習を引き続き支援するとともに、生徒の進路目標の実現のため、進路指導も充実させる。
